

No.	111	<h1>火起こし</h1>			
概要	○マイギリ式発火法により、グループで協力して火を起こす。				
内容	人数(人)	~40人	時間	1~1.5時間	
	対象	小4以上	時期	通年	
	場所	屋外創作棟、屋外創作棟前、玄関横			
	指導形態	自主活動 ・ 事前の説明のみ 直接指導			
安全管理	引率者と担当職員による監視				
ねらい	○ 先人の知恵に学び、生きるための工夫に気づく。 ○ グループで協力して作業を進めることにより、連帯感を深める。 ○ 役割分担をすることで協力を意識できるようにする。				
準備	施設から貸出	・各グループに火起こし道具一式 ・風除けの筒、ランタン			
	団体で準備	活動しやすい服、帽子、軍手(ゴムがついていないものが望ましい。) ※ 夏期は タオル、水筒			
	確認事項	・起こした火をランタンに移して保管し、その後の活動で利用することもできる。 (例:炊飯活動、ファイヤー、キャンドルの集い) ・ファイヤースターターを使う火起こし体験活動も可。(事前に要相談) ・屋外での実施は、風など天候に左右されやすいので、人数と班編成は要相談。			

	内 容	留意事項
活動前	<職員との打ち合わせ>(実施までに) ・ねらいの確認 ・人数や班の数 ・集合場所や集合時刻の確認	<班編成の目安> ・活動しやすい人数…各班4~6人。 ・班の数…8班まで。
活動の説明	<職員による説明> ○めあてや活動の進め方、終了時刻の確認 ○火おこしの方法について話を聞く。 ・マイギリ式の発火法について ・火きり杵の回転を止めずに交代する方法を知る。 ○安全についての話を聞く。 ・火の粉の飛び散り、急な発火、摩擦熱 ・ロウソク台とロウソクの置き場、置き方 ・火種を育てるときは、軍手をはめる。 ・引火や火傷に注意	※火が起こせない班があっても、時間になったら終了することを確認しておく。
展 開	○グループの中で交代しながら、全員が火起こしを体験する。 1)班ごとに道具の準備をする。 2)火種を作る。 ・火きり杵を火きり臼の穴に合わせ、回転させて起こる摩擦により火種をつくる。 ・灰皿に入れた火口の上に、火きり杵から火種を採る。 3)火種を炎にする。 ・やさしく息を吹きかけ、火口に火種を広げる。 ・煙が出はじめたら、細くばらした麻紐を適量火種の上にのせ、息で飛ばないように金網をかぶせ、横から強く息を吹きかける。 4)炎を保管する。 ・炎がついたら金網をすぐに外し、火をろうそくに移す。 ・ろうそくから細竹を使ってランタンに火を移し、保管する。 ・時間がある限り、交代しながら火起こしをする。 5)片付けと清掃をする。	○役割分担することで協力を意識できるように声をかける。 ○火種を広げるとき、炎を起こすときは、火の粉が飛び散ったり、急に燃え上がったりすることもあるので十分注意する。 ○全班が火を起こせなくても、次の活動に支障が出ないよう、設定時間内に活動を終了する。 ○火きり杵の芯は根元まで使うと抜けなくなる。2cmくらいになったら交換する。
	火起こし道具一式 ①火きり臼 ②火きり杵 ③土台板 ④麻紐 ⑤ろうそく、ろうそく台 ⑥灰皿 ⑦火口(ほくち)	火口(ほくち) がまの穂をほぐして炭にしたもの 

